

令和7年度実施「魅力と特色ある県立高校づくりについてのアンケート」集計結果等の概要

神奈川県教育委員会教育局指導部高校教育課

令和7年度、全県立高校を対象に行った「魅力と特色ある県立高校づくりについてのアンケート」の集計結果を取りまとめました。今後の県立高校改革の動向を踏まえ、分析結果を活用しながら、魅力と特色ある県立高校づくりに生かしてまいります。

I 実施対象

生徒	全県立高校（全課程）の卒業学年・年次の生徒
保護者	上記生徒の保護者
学校運営協議会委員	全県立高校の学校運営協議会委員

II 実施時期 令和8年1月～令和8年2月下旬

III 集計区分

課程	学科	学びのしくみ	校数	対象校
全日制	普通科	学年制	93	鶴見、横浜翠嵐、城郷、横浜平沼、横浜緑ヶ丘、横浜立野、横浜南陵、永谷、光陵、保土ヶ谷、希望ヶ丘、旭、横浜水取沢、釜利谷、港北、新羽、岸根、霧が丘、白山、市ヶ尾、田奈、元石川、川和、荏田、新栄、舞岡、上矢部、柏陽、金井、松陽、横浜瀬谷、新城、住吉、川崎北、多摩、生田、百合丘、生田東、菅、麻生、横須賀、横須賀大津、追浜、津久井浜、横須賀南、平塚江南、高浜、鎌倉、七里ガ浜、大船、深沢、湘南、藤沢西、湘南台、小田原東、西湖、茅ヶ崎、茅ヶ崎北陵、鶴嶺、茅ヶ崎西浜、逗子葉山、上溝、相模原、麻溝台、上溝南、上鶴間、橋本、相模田名、秦野、秦野曾屋、厚木、厚木王子、厚木北、厚木西、大和、大和南、大和東、大和西、伊勢原、伊志田、海老名、有馬、座間、足柄、綾瀬、綾瀬西、寒川、大磯、二宮、大井、山北、愛川、津久井
		単位制	15	神奈川総合、横浜清陵、横浜旭陵、横浜桜陽、横浜栄、横浜緑園、川崎、大師、平塚湘風、藤沢清流、小田原、相模原弥栄、三浦初声、厚木清南、相模原城山
	総合学科	単位制	6	鶴見総合、金沢総合、麻生総合、藤沢総合、秦野総合、座間総合
	専門学科	学年制	21	神奈川工業、商工、二俣川、磯子工業、白山、上矢部、川崎工科、向の岡工業、横須賀工業、海洋科学、横須賀南、平塚農商、平塚工科、藤沢工科、小田原東、小田原城北、相原、厚木王子、厚木北、中央農業、津久井
		単位制	6	神奈川総合、横浜国際、総合産業、相模原弥栄、三浦初声、吉田島
定時制	普通科	学年制	7	横浜翠嵐、希望ヶ丘、横須賀、追浜、茅ヶ崎、伊勢原、津久井
		単位制	7	横浜明朋、川崎、高浜、湘南、小田原、厚木清南、相模向陽館
	総合学科	単位制	4	磯子工業、向の岡工業、総合産業、秦野総合
	専門学科	学年制	2	神奈川工業、小田原城北
通信制	普通科	単位制	2	横浜修悠館、厚木清南

※複数の学科を並置している学校がある

IV 実施内容

1 生徒向けアンケートの回答者数及び回答率

区分		対象者数	回答者数	回答率	
全日制	普通科	学年制	25,497 名	15,855 名	62.2 %
		単位制	3,131 名	1,618 名	51.7 %
	総合学科		1,290 名	917 名	71.1 %
	専門学科		3,530 名	2,287 名	64.8 %
定時制		617 名	378 名	61.3 %	
通信制		479 名	159 名	33.2 %	
全体		34,544 名	21,214 名	61.4 %	

2 アンケートの質問項目

1 生徒向けアンケート

- (1) 高校生活を振り返ってみて、あなたが通っている高校に満足していますか。
- (2) 高校生活での「キャリア教育（社会的・職業的自立のために必要な能力や態度を育てる教育）」により、中学生の時よりも社会的・職業的自立のために必要な能力が身に付いたと思いますか。
- (3) 「学校での授業や活動が今後の自分のために役に立つ」と思いますか。
- (4) 高校生活において、1人1台端末を活用することによって、中学生の時よりも情報活用能力を高めることができたと思いますか。（令和6年度より追加した項目）
- (5) 高校生活において、課題の発見と解決に向けて主体的に考えたり、発表しあうなどの協働的な学習活動を行うことによって、中学生の時よりも思考力・判断力・表現力を高めることができたと思いますか。
- (6) 中学生の時よりも人を思いやる気持ちが身に付いたと思いますか。
- (7) 中学生の時よりも（地域）社会に貢献しようと思うようになりましたか。
- (8) 高校生活を通して、「自分はこうなりたい、こうしたい」という夢や希望を持たたと思いますか。

2 保護者向けアンケート

生徒向けアンケートとの共通項目

- (1) 生徒本人の高校生活を振り返って、本人が通っている高校に満足していますか。
- (2) 高校生活を通して、中学生の時よりも生徒本人の思考力・判断力・表現力が高まったと思いますか。
- (3) 生徒本人の高校生活を振り返ってみて、生徒本人が中学生の時よりも人を思いやる気持ちが身に付いたと思いますか。
- (4) 生徒本人の高校生活を振り返ってみて、生徒本人が中学生の時よりも（地域）社会に貢献しようと思うようになりましたか。
- (5) 生徒本人が高校生活を通して、「自分はこうなりたい、こうしたい」という夢や希望を持たたと思いますか。

保護者のみの項目

- (6) 高校から保護者に対して積極的に情報が提供され、学校の様子が良くわかったと思いますか。
- (7) 保護者として学校に話をしたり、生徒本人について相談できる環境がありましたか。
- (8) 学校での保護者会や社会人のための講座、施設開放など、学校での活動に参加できたと思いますか。

V 結果の分析（次項以降）

1 生徒向けアンケート結果

- ・アンケート結果の経年変化について
- ・保護者向けアンケート結果と生徒向けアンケート結果との比較

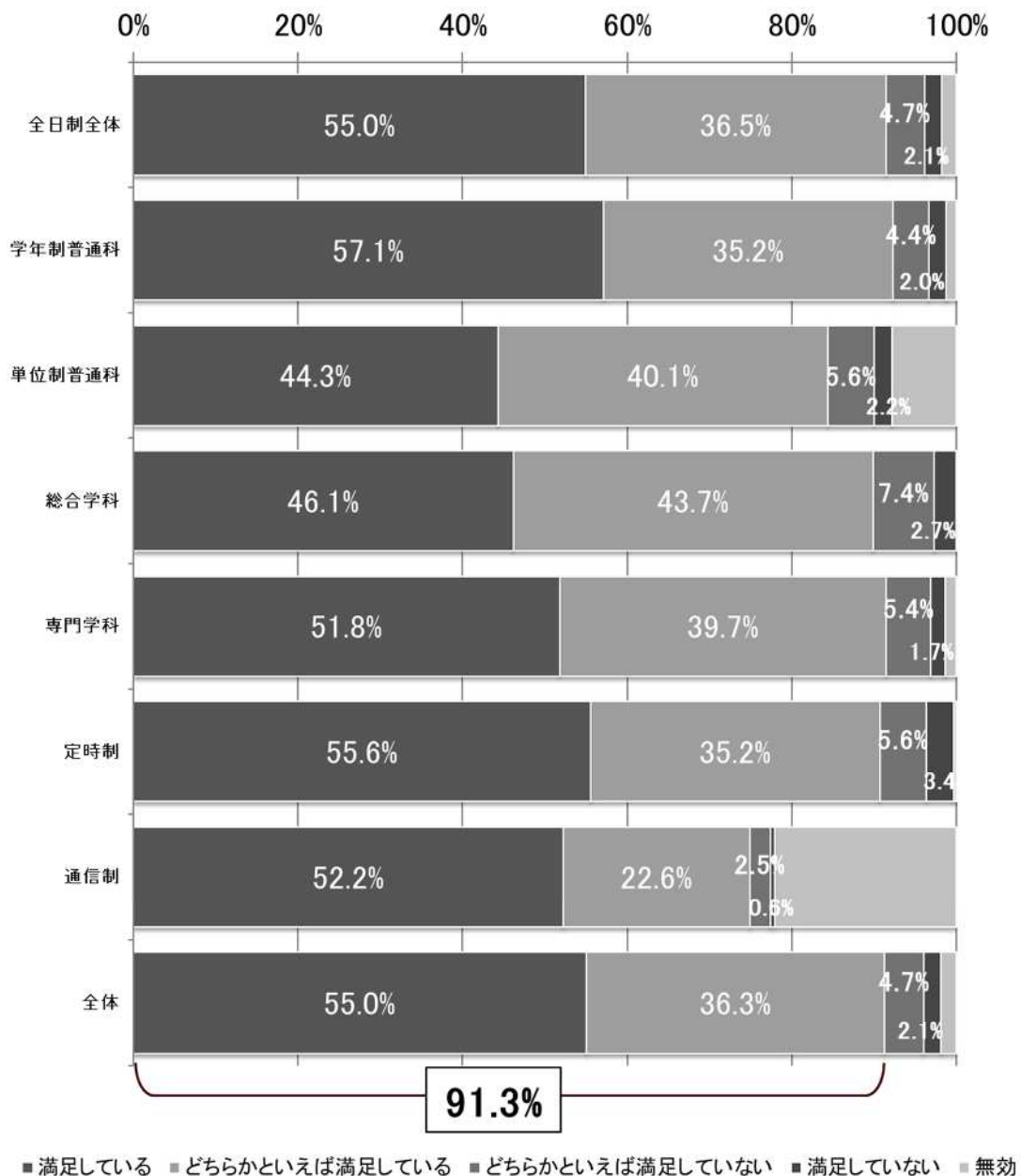
2 学校運営協議会委員の意見

Ⅰ 生徒向けアンケート結果

学習希望や興味・関心に応じることができるよう、特色ある科目の設置や、学校行事、部活動等の多彩な活動の提供など、活力と魅力ある県立高校をめざして取り組んできたが、この取組を検証するため、アンケートを実施した。

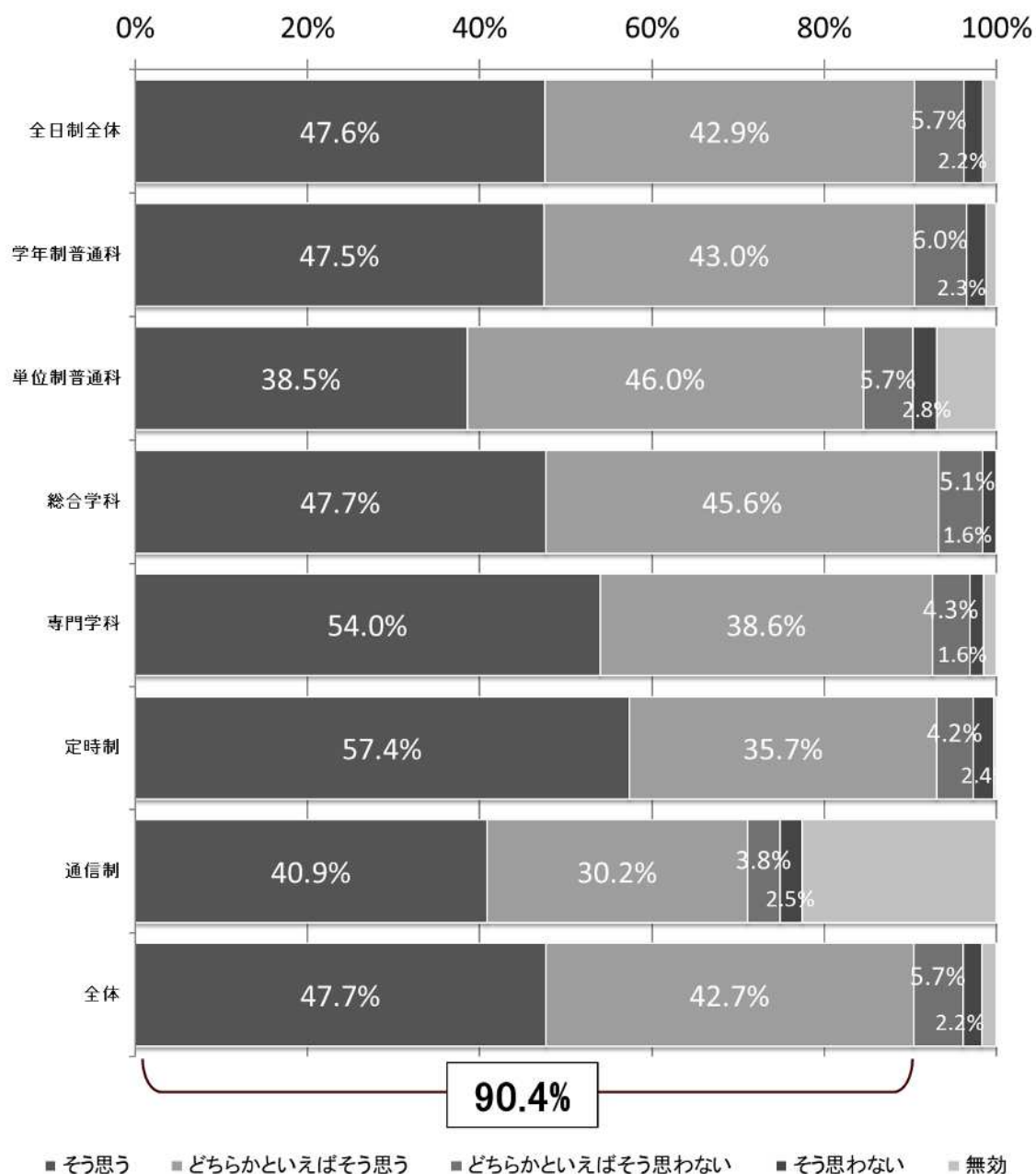
(1) 高校生活を振り返ってみて、あなたが通っている高校に満足していますか。

この質問項目に対して、「満足している」「どちらかといえば満足している」のいずれかに回答している生徒（以下「満足群」という。）は、回答者全体の91.3%となった。令和6年度の満足群（91.5%）と比較すると、同様の結果になった。



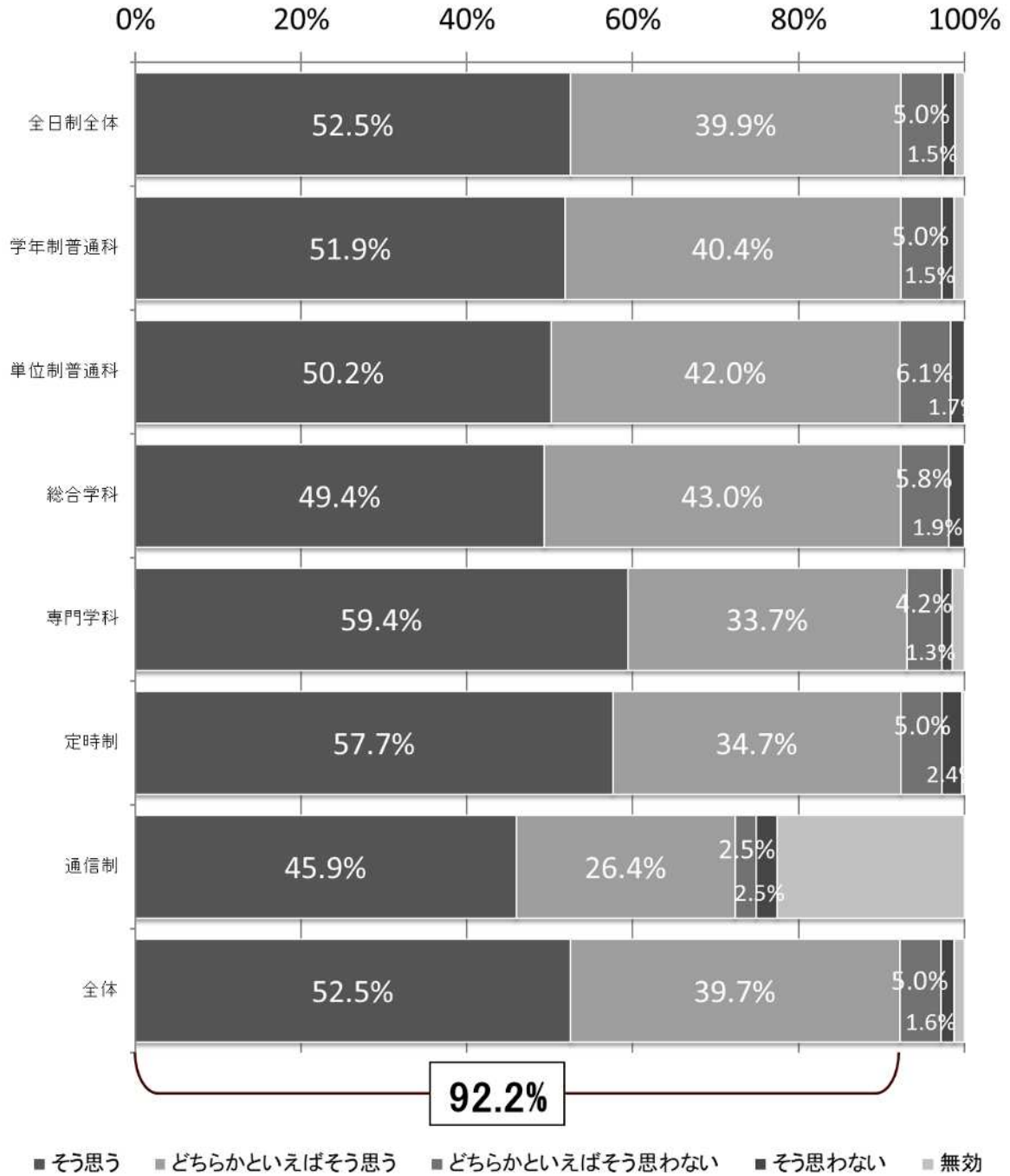
(2) 高校生活での「キャリア教育（社会的・職業的自立のために必要な能力や態度を育てる教育）」により、中学生の時よりも社会的・職業的自立のために必要な能力が身に付いたと思いますか。

この質問項目に対して、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」のいずれかに回答している生徒（以下「肯定群」という。）は、回答者全体の90.4%となった。令和6年度の肯定群（89.2%）と比較すると、その割合はやや増加した。



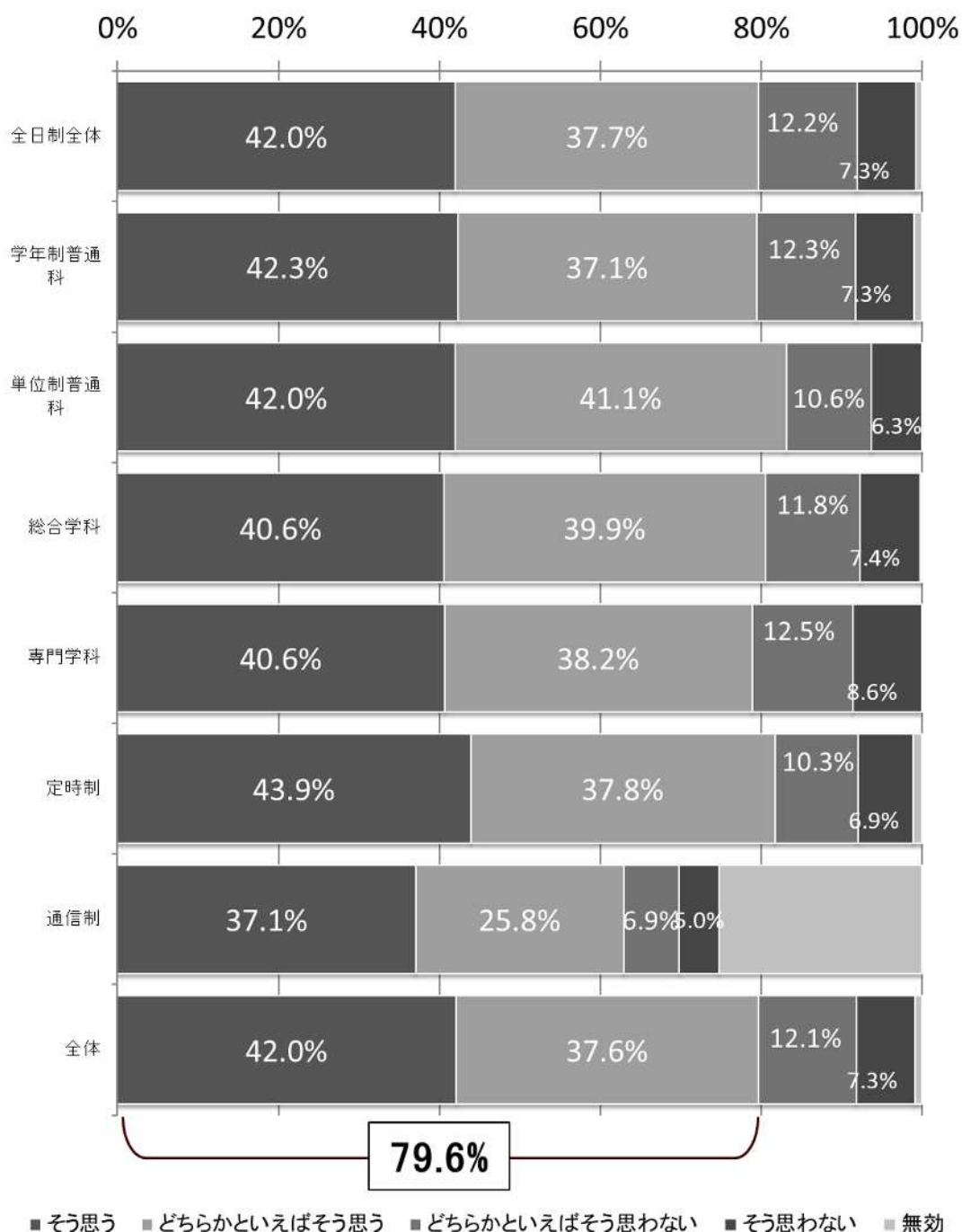
(3) 「学校での授業や活動が今後の自分のために役に立つ」と思いますか。

この質問項目に対して、肯定群は、回答者全体の92.2%となった。令和6年度の肯定群(90.9%)と比較すると、その割合はやや増加した。



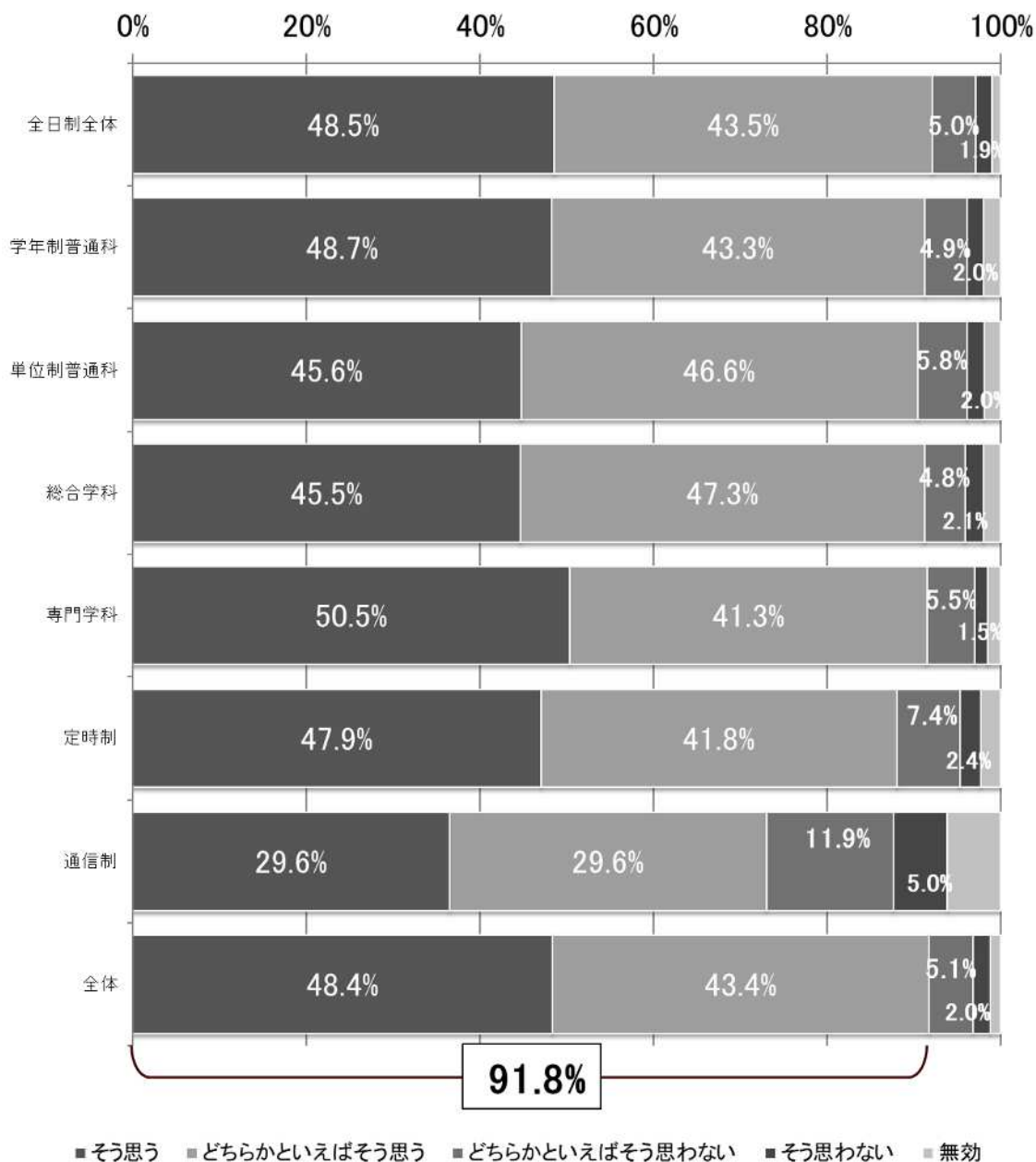
(4) 高校生活において、1人1台端末を活用することによって、中学生の時よりも情報活用能力を高めることができましたか。(令和6年度より追加した項目)

この質問項目に対して、肯定群は、回答者全体の79.6%となった。令和6年度の肯定群(75.5%)と比較すると、その割合は増加した。



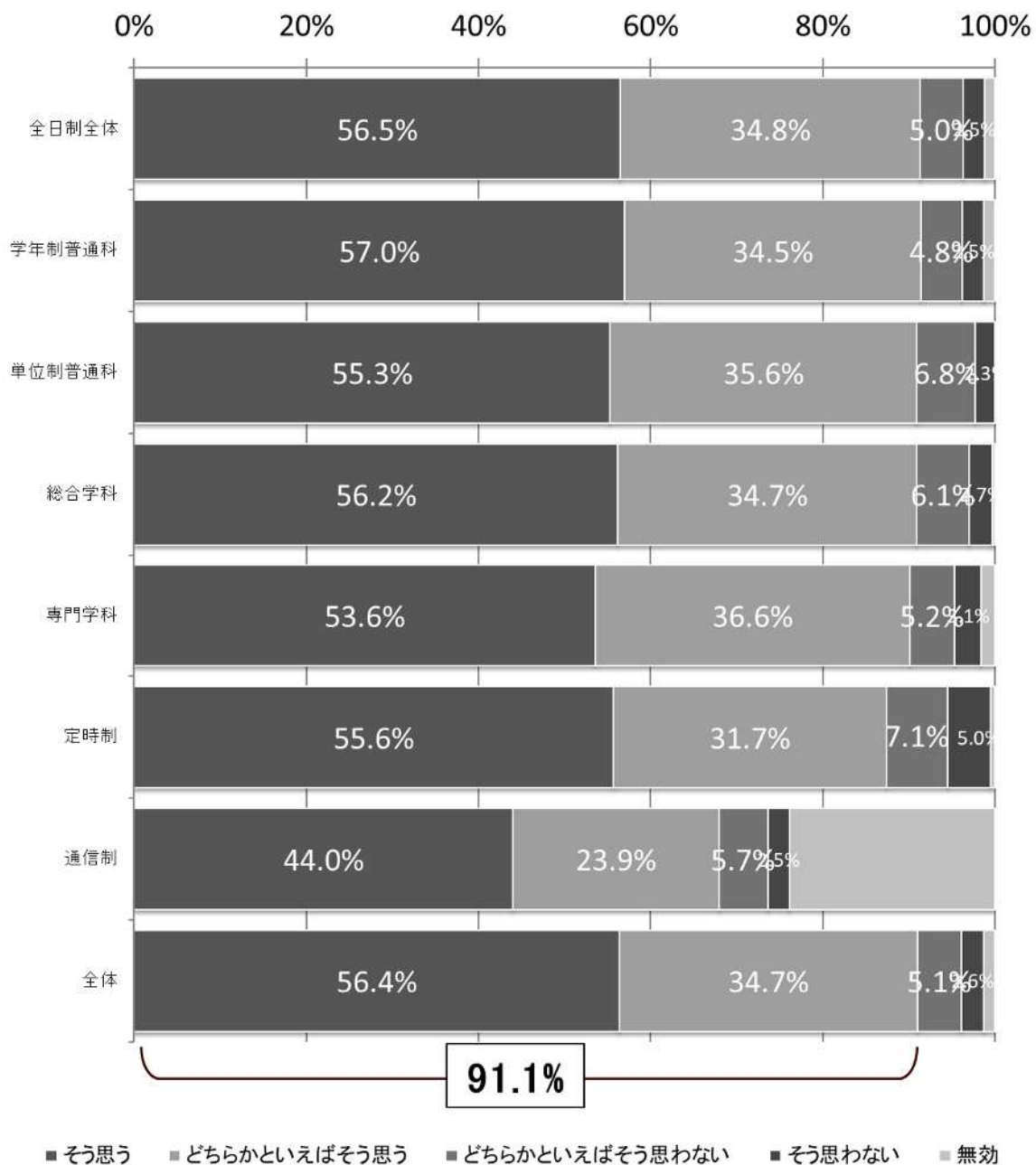
(5) 高校生活において、課題の発見と解決に向けて主体的に考えたり、発表しあうなどの協働的な学習活動を行うことによって、中学生の時よりも思考力・判断力・表現力を高めることができたと思いますか。

この質問項目に対して、肯定群は、回答者全体の91.8%となった。令和6年度の肯定群(90.2%)と比較すると、その割合はやや増加した。



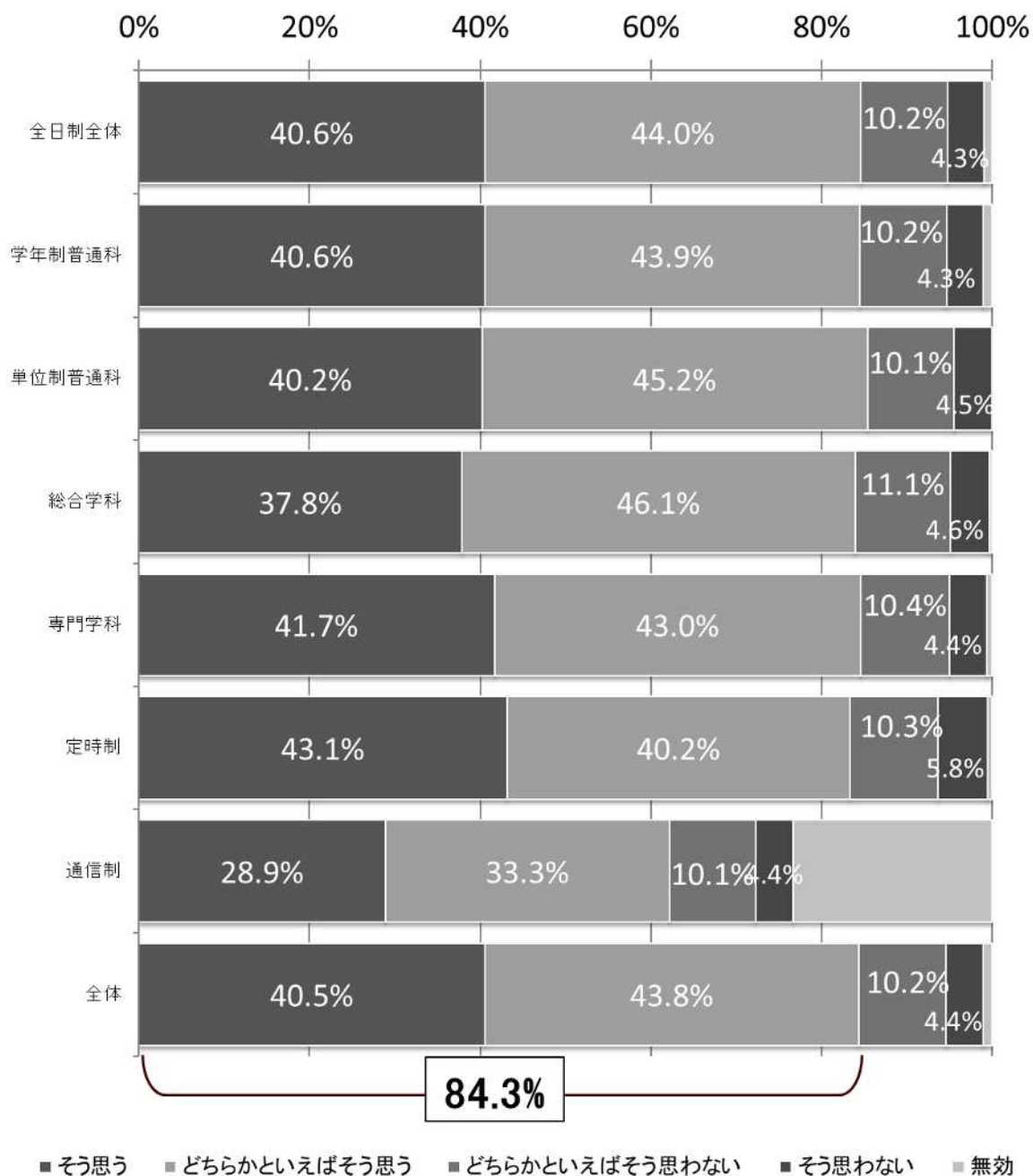
(6) 中学生の時よりも人を思いやる気持ちが身に付いたと思いますか。

この質問項目に対して、肯定群は、回答者全体の91.1%となった。令和6年度の肯定群(89.6%)と比較すると、その割合はやや増加した。



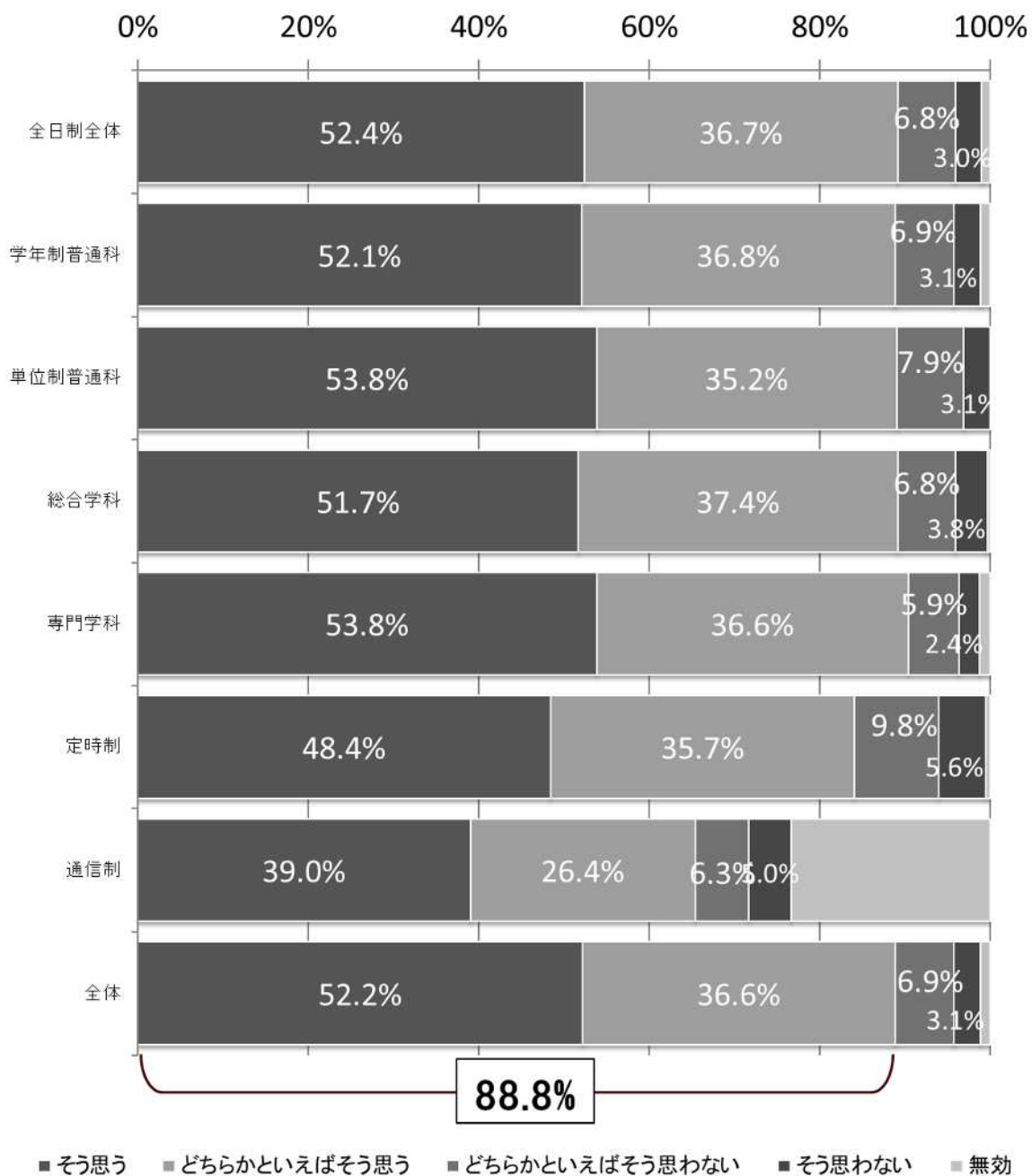
(7) 中学生の時よりも（地域）社会に貢献しようと思ようになりましたか。

この質問項目に対して、肯定群は、回答者全体の84.3%となった。令和6年度の肯定群（81.6%）比較すると、その割合はやや増加した。



(8) 高校生活を通して、「自分はこうなりたい、こうしたい」という夢や希望を持たたと思いますか。

この質問項目に対して、肯定群は、回答者全体の88.8%となった。令和6年度の肯定群(87.5%)と比較すると、その割合はやや増加した。



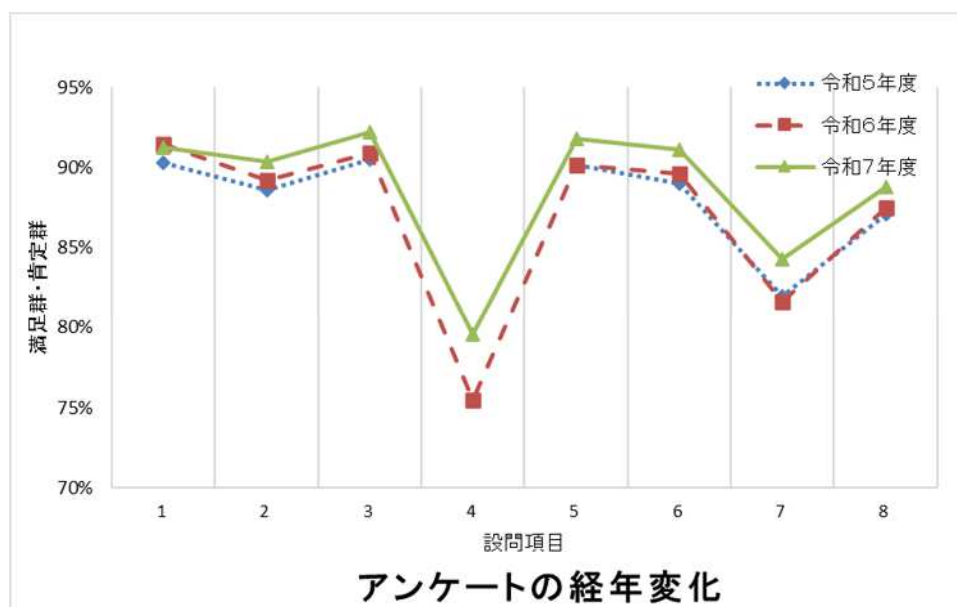
アンケート結果の経年変化について

令和5年度から過去3年間の結果の経年変化を以下に示す。

設問(1)は「満足している」「どちらかといえば満足している」のいずれかに回答している生徒、設問(2)～設問(8)は「そう思う」「どちらかといえばそう思う」のいずれかに回答している生徒の割合(%)を示す。多くの項目において約8割以上の生徒が肯定的な回答をしている。

	設問	令和5年度	令和6年度	令和7年度
(1)	高校生活を振り返ってみて、あなたが通っている高校に満足していますか。	90.3%	91.5%	91.3%
(2)	高校生活での「キャリア教育(社会的・職業的自立のために必要な能力や態度を育てる教育)」により、中学生のときよりも社会的・職業的自立のために必要な能力が身に付いたと思いますか。	88.6%	89.2%	90.4%
(3)	「学校での授業や活動が今後の自分のために役に立つ」と思いますか。	90.5%	90.9%	92.2%
(4)	高校生活において、1人1台端末を活用することによって、中学生のときよりも情報活用能力を高めることができたと思いますか。		75.5%	79.6%
(5)	高校生活において、課題の発見と解決に向けて主体的に考えたり、発表しあうなどの協働的な学習活動を行うことによって、中学生のときよりも思考力・判断力・表現力を高めることができたと思いますか。	90.2%	90.2%	91.8%
(6)	中学生のときよりも人を思いやる気持ちが身に付いたと思いますか。	89.0%	89.6%	91.1%
(7)	中学生のときよりも(地域)社会に貢献しようと思うようになりましたか。	82.0%	81.6%	84.3%
(8)	高校生活を通して、「自分はこうなりたい、こうしたい」という夢や希望を持たせたと思いますか。	87.1%	87.5%	88.8%

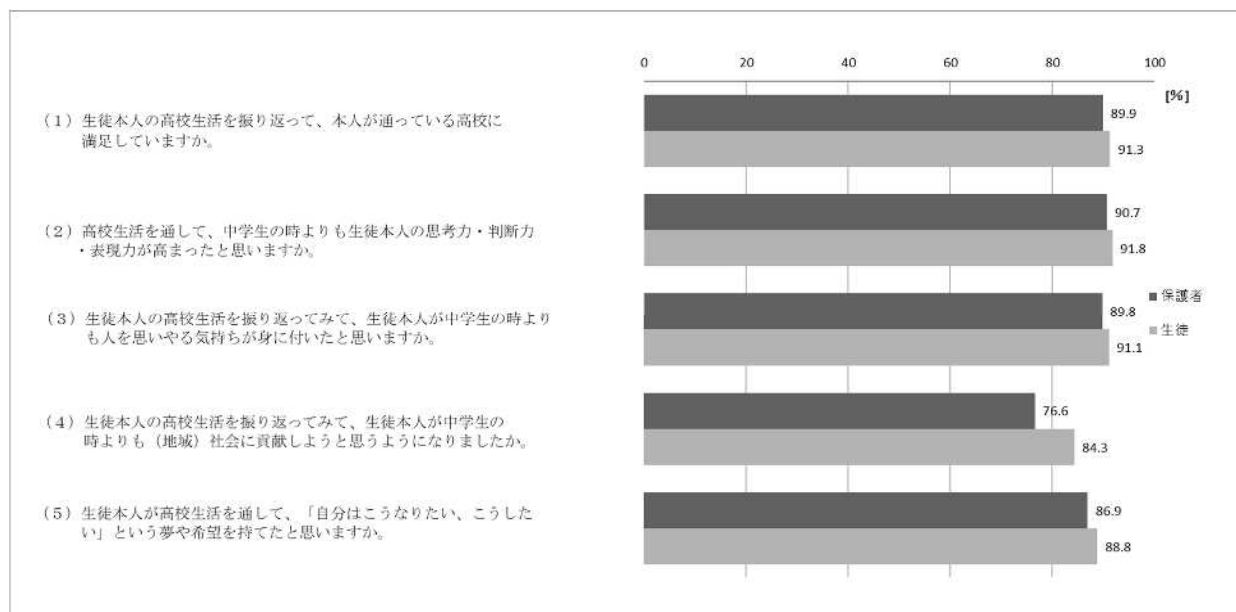
※(4)は令和6年度より追加した設問



保護者向けアンケート結果と生徒向けアンケート結果との比較

生徒向けアンケートとの共通項目について、満足群及び肯定群の割合を比較した。保護者向けアンケートの項目を基に結果を以下に示す。

保護者の満足群及び肯定群の割合は、生徒と保護者の回答で大きな差はなかった。生徒と保護者の回答で最も差が大きかった質問項目は、(4)である。(4)の「生徒本人の高校生活を振り返ってみて、生徒本人が中学生の時よりも(地域)社会に貢献しようと思うようになりましたか。」については、保護者(76.6%)と生徒(84.3%)の肯定群の割合を比較すると、生徒の方が7.7ポイント高かった。



2 学校運営協議会委員の意見

【対 象】全県立高校の学校運営協議会委員

【対象校】全県立高等学校

【内 容】各校の学校運営協議会に期待することなど、自校のコミュニティ・スクールでの活動を通しての意見

【意見集約の方法】各学校において、学校運営協議会を通じて伺った意見を取りまとめた。

- ・生徒の課題解決能力を育成するために、授業で工夫された取組が実施されていることは評価できる。
- ・質の高い授業づくりに多くの時間と労力をかけている点に敬意を表したい。
- ・ポートフォリオ活用の好事例を、生徒に「期待すること」として示すとよい。
- ・生徒による授業評価が良く、授業改善の取組が着実に成果を上げている。
- ・個別最適な学びと協働的な学びの組み合わせた授業を継続して推進することを期待する。
- ・授業改善について学校全体で組織的に取り組んでおり、改革が進んでいると感じる。
- ・生徒の声を評価指標のひとつにして、教員が協働した授業改善は有効である。
- ・著しく変化する情報社会の中で、ICTをどう活用すべきか自分で考える力（思考力や創造力）を身につけられるように、今後も指導をしていただきたい。
- ・生徒指導を通して基本的生活習慣の定着に努めるとともに、教員間の共通理解に基づく指導体制の構築が図られており、教育相談体制の整備により生徒支援の充実も進んでいる。
- ・生徒の多様な背景に応じた支援が丁寧に行われ、行事や部活動での成功体験が自己肯定感の向上につながっている。
- ・部活動の大会開催日を事前告知して応援者を増やすことで、部活動の活性化につながると思う。
- ・学校生活で「できる」ことを増やし、自己肯定感とともに他者との協働的な結びつきによる達成感を高めることができている。
- ・今後も、生徒一人ひとりの状況に応じた進路実現の支援を期待したい。
- ・地域の施設や事業所を活用し、進路の具体的なイメージをつかむ機会をさらに充実させていくことが期待される。
- ・オープンキャンパス参加の促進、進路講演会、大学での模擬授業体験などを通して、生徒が早い段階から進路や将来を考える機会を広げていることが評価できる。
- ・一人ひとりの状況や適性に合った進路選択ができるよう、生徒保護者へのこまめな情報提供など丁寧かつ組織的な支援体制が求められる。
- ・多様化する入試制度に対応するために保護者の理解を深める支援をしている点は評価できる。
- ・地域連携が充実してきているが、情報の共有と発信を効果的に行ってほしい。
- ・緊急参集訓練や地域防災スクールなどを開催して生徒が体験できるのは良い取組である。
- ・防災を通じた地域連携は重要で大変良い取組みなので、確実に継続してほしい。
- ・広報活動に対する教員の熱意が中学生や保護者に伝わっており、学校説明会でのアンケート評価が高い。
- ・学校HPの更新頻度が増加したことは素晴らしい。今後は内容の向上を期待する。
- ・不祥事防止職員研修を計画的に実施し、風通しの良い職場環境が醸成されている。
- ・自動採点システムの導入など校務DXが進んでいる。
- ・持続可能な学校経営に向けた、教職員の業務適正化と働き方改革の加速化を要望する。
- ・事故防止（安全管理及び事務処理）によく配慮している。